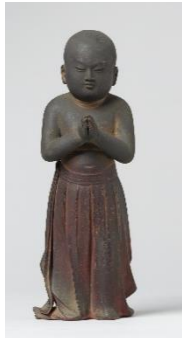


中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①有形文化財の収集等 1) 有形文化財の収集 2) 寄贈・寄託品の受入れ等							
【年度計画】								
・ I-1-(1)-①-1) (東京国立博物館) ア ・ I-1-(1)-①-2) (5館共通) ア								
担当部課	学芸研究部列品管理課			事業責任者	課長 沖松健次郎			
【実績・成果】								
(東京国立博物館) ア								
購入件数15件 (内訳：絵画2件、彫刻1件、陶磁3件、染織4件、考古1件、東洋絵画1件、東洋彫刻2件、東洋染織1件、決算額：281,930千円)								
・ 考古分野の購入品「重要美術品 外縁付鈕式銅鐸」(伝徳島県美馬市脇町出土) は、特徴的な文様を持つと同時に、出土地が明らかである点で資料的価値も高い作例であり、購入によりコレクションをより充実させることができた。								
(5館共通) ア								
新規寄贈品件数118件								
(内訳：絵画3件、彫刻1件、刀剣34件、陶磁4件、漆工2件、染織11件、東洋絵画32件、東洋書跡6件、東洋彫刻3件、東洋陶磁1件、東洋染織13件、東洋考古8件)								
・ 絵画分野では、質量ともに優れ保存状態も極めて良好、かつ網羅的に収集された、世界的にも評価の高い浮世絵コレクション1件 (全1,025点) を所蔵品として受け入れた。								
・ 東洋絵画・東洋書跡分野では、日本の個人所有の中国絵画コレクションとして質、量ともに最大規模であり、中国絵画研究史上重要な橋本コレクションから、計38件を所蔵品として受け入れた。								
新規寄託品件数8件 (内訳：彫刻2件、染織1件、東洋陶磁5件)								
・ 染織分野では、江戸時代の小袖模様の変遷を辿る上で貴重な作例である染織コレクション1件 (全42点) の寄託を受け入れた。								
・ 返却48件のうち、37件 (内訳：絵画2件、刀剣23件、漆工1件、染織10件、東洋陶磁1件) は寄贈品または購入品として受理した。								
【補足事項】								
・ 6年度に購入、新規寄贈、新規寄託された作品については、7年度に新収品展にて公開する予定である。								
【評価指標】 項目	6年度実績	目標値	評価	経年変化	2	3	4	5
所蔵品件数	121,156件	-	-		119,942	120,073	120,812	121,021
うち国宝	89件	-	-		89	89	89	89
うち重要文化財	653件	-	-		648	648	649	650
収集件数	135件	-	-		71	131	741	209
うち購入件数	15件	-	-		1	8	1	26
うち寄贈件数	118件	-	-		52	81	136	122
うち編入件数	2件	-	-		18	42	604	61
寄託品件数	2,635件	-	-		2,651	2,651	2,668	2,675
うち新規寄託品件数	8件	-	-		69	30	42	41
長期借用品件数	668件	-	-		635	644	644	660
文化財購入費	281,930千円	-	-	200,000	570,000	88,000	262,300	
【年度計画に対する総合評価】				【判定根拠、課題と対応】				
評価：S				6年度は購入品として、「外縁付鈕式銅鐸」をはじめとして、質が高くかつ展示効果が見込まれる作品をコレクションに加えることができた。 寄贈においては、全1,025点の浮世絵コレクションを受け入れた。これは当館の歌川広重コレクションの欠を補い、浮世絵展示のより一層の充実に寄与するものである。加えて、保存状態が極めて良好かつ網羅的に収集された、世界的にも評価の高いコレクションであり、当該分野の質を飛躍的に高めることができた。また、寄託においても、展示活用が大いに見込まれる作品を多数受け入れることができた。 よって、当初の計画を大きく上回る成果を上げることができたといえ、S評価が妥当であると判断した。				
【中期計画記載事項】								
1) 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 (東京国立博物館) 日本を中心にして広くアジア諸地域等にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。								
2) 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。								

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 今中期は、所蔵者との継続的な信頼関係の構築の結果として、複数分野において大型かつ質の高いコレクションの寄贈・寄託受け入れが続いている。 6年度は、中期計画の4年目として、着実に各分野で情報を広く収集し、浮世絵コレクション1件（全1,025点）の寄贈や、着物コレクション1件（全42点）の寄託等を受け入れた。寄贈・寄託件数としては5年度と同程度であるが、大型かつ質の高いコレクションの一括受け入れにより、点数としては5年度を大幅に上回り、当館の収蔵品を補完し展示を充実させる作品を多数収蔵品に加えることができた。 以上の実績から、中期計画を大きく上回る成果を上げることができているといえる。7年度以降も文化財の更なる収集に努めていきたい。
---------------------------------	---

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①有形文化財の収集等 1) 有形文化財の収集 2) 寄贈・寄託品の受入れ等							
【年度計画】								
・ I-(1)-①-1) (京都国立博物館) ア ・ I-(1)-①-2) (5館共通) ア								
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 永島明子					
【実績・成果】								
・ I-(1)-①-1) (京都国立博物館) ア ・ 購入件数 7件 内訳： 絵画4件、陶磁2件、漆工1件 決算額44,160,000円 ・ 6年度は、「合戦図屏風 狩野永良筆」、「上田秋成 甲賀文麗筆」、「高士観瀑図 附西遊紀行 1帖 青木木米筆」、「六字経曼荼羅図像断簡」、「色絵金彩菊文虫籠形三段重」、「色絵金彩菊丸文虫籠形三段重」、「楼閣山水蒔絵角德利」を購入した。 ・ I-(1)-①-2) (5館共通) ア ・ 寄贈件数 60件 内訳： 絵画 9件、書跡 2件、彫刻 1件、金工 16件、陶磁 23件、漆工 0件、染織 8件、考古 1件、歴史資料 0件 ・ 寄託件数 276件 内訳： 絵画171件、書跡23件、彫刻18件、金工26件、陶磁9件、漆工12件、染織1件、考古7件、歴史資料9件								
【補足事項】								
 楼閣山水蒔絵角德利 4本								
【評価指標】項目	6年度実績	目標値	評価	経年変化	2	3	4	5
所蔵品件数	9,078件	-	-		8,150	8,279	8,526	9,011
うち国宝	29件	-	-		29	29	29	29
うち重要文化財	207件	-	-		200	200	200	200
収集件数	67件	-	-		20	129	247	485
うち購入件数	7件	-	-		9	12	8	16
うち寄贈件数	60件	-	-		11	117	239	469
うち編入件数	0件	-	-		0	0	0	0
寄託品件数	6,767件	-	-		6,547	6,562	6,587	6,541
うち新規寄託品件数	276件	-	-		43	95	74	44
長期借用品件数	104件	-	-	99	99	104	104	
文化財購入費	44,160千円	-	-	41,716	299,953	74,000	346,900	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 前近代の輸出文化財を購入するなど、京都文化のみならず、海外との深い関わりを示す作品を購入することができた。また、寄贈について各分野の担当研究員が尽力し、重要文化財を含む貴重な作品を収集することができた。これらの作品を7年度以降の展示に活用することを予定していることを踏まえ6年度はBと評価する。						
【中期計画記載事項】 1) 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 (京都国立博物館) 京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 2) 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 6年度も、京都文化を中心とした美術作品について、限られた予算の中で順調に収集を行った。7年度以降も、様々な手段を講じて、研究及び展示に大きく寄与する文化財の収集に努める。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①有形文化財の収集等 1) 有形文化財の収集 2) 寄贈・寄託品の受入れ等							
【年度計画】								
・ I-1-(1)-①-1) (奈良国立博物館) ア ・ I-1-(1)-①-2) (5館共通) ア								
担当部課	学芸部		事業責任者	学芸部長 吉澤 悟				
【実績・成果】								
(奈良国立博物館) ア 8件の文化財を購入した。								
・ 彫刻 1件：聖徳太子立像（二歳像） 1軀								
・ 絵画 3件：釈迦如来像（清凉寺式）1幅、釈迦八相涅槃図 1幅、金胎仏画帖断簡（不空成就如来） 1幅								
・ 書跡 1件：画図讃文断簡 1幅								
・ 工芸 2件：金銅蓮華文磬 1面 銅製銀象嵌梵字宝相華唐草文香炉 1口								
・ 考古 1件：灰釉短頸壺 附銅鈎（伝茨城県石岡市出土） 壺・銅鈎 各1口 (5館共通) ア								
○寄贈 令和6年度に寄贈を受けた文化財は以下の1件である。								
・ 絵画 1件：不動明王像 龍湫周沢筆 1幅								
○寄託 寄託を受け入れたのは以下の1件である。								
・ 彫刻 1件：重要文化財 木造弥勒菩薩坐像 1軀								
【補足事項】								
・ 絵画部門で寄贈を受けた「不動明王像 龍湫周沢筆」は、臨済宗夢窓派の高僧、龍湫周沢が永和4年（1378）に描いたもの。周沢は日課として不動明王像を多く描いており、本品はそのうちの一つ。禅僧が余技として描く禅余画の事例として優れている。								
・ 絵画部門で購入した「釈迦八相涅槃図」は、横長の画面中央に大きく釈迦が涅槃に入る情景を描き、左右に帯状の区画を設け、仏伝を描きこむという、八相涅槃図の稀有な作例。南都絵仏師が制作に関与した可能性が高い点も注目される。								
・ 工芸部門では、仏教工芸の一分野として供養具の収集・展示にも力を入れている。本品のようないわゆる「金山寺香炉」についても、館蔵品2件、寄託品1件を数えるが、本品はそれらに比して作行きが優れ、由緒が知られる点でも格別の意義を有している。西大寺伝来という由緒に鑑みても、本品が奈良に安住の地を得ることが望ましいと考える。本品が当館のコレクションに加えられることで、南都の仏教文化はもとより、東アジア圏における仏具受容の実態という視点からも、一層踏み込んだ仏教工芸の紹介が可能となり、当館の展示の充実化が期待される。								
・ 彫刻部門で購入した「聖徳太子立像（二歳像）」は、中世以降、盛んに造られるようになった聖徳太子二歳像の中でも最初期の制作例とみられる像。一尺あまりという小ささも大変珍しい。								
								
				「釈迦八相涅槃図」（購入）				
								
				「不動明王像 龍湫周沢筆」（寄贈）				
								
				「銅製銀象嵌梵字宝相華唐草文香炉」（購入）				
								
				「聖徳太子立像」（二歳像）（購入）				
【定量的評価】項目	6年度実績	目標値	評価	経年変化	2	3	4	5
所蔵品件数	1,962件	-	-		1,929	1,930	1,947	1,953
うち国宝	13件	-	-		13	13	13	13
うち重要文化財	114件	-	-		114	114	114	114
収集件数	9件	-	-		18	1	17	6
うち購入件数	8件	-	-		10	0	12	1
うち寄贈件数	1件	-	-		8	0	5	5
うち編入件数	0件	-	-		0	1	0	0
寄託品件数	1,932件	-	-		1,988	1,956	1,937	1,937
うち新規寄託品件数	1件	-	-		26	7	4	6
長期借用品件数	41件	-	-	41	41	41	41	
文化財購入費（千円）	359,000千円	-	-	284,500	0	190,500	11,000	

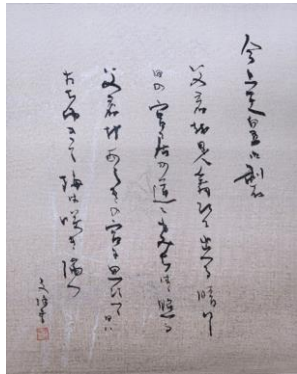
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 寄贈によって、収蔵がなかった禅余画を収蔵することができた。また購入においては、絵画・工芸部門において、南都（奈良）にゆかりのある作品を収集することができた。また、多部門にわたりバランス良く作品を購入することができ、当館のコレクションを一層充実させることができた。このことから、計画を十分に達成できた判断しB評価とした。
【中期計画記載事項】 体系的・通史的にバランスのとれた所蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 （奈良国立博物館） 仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。	
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 仏教美術をテーマとすることが多い当館の特別展、および名品展「珠玉の仏教美術」において、釈迦信仰や南都の仏教美術などをテーマとする展示への活用が期待される文化財を多数受け入れることができた。また、購入に関しても、5部門にわたり優品を収集することができた。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集 2) 寄贈・寄託品の受入れ等							
【年度計画】								
・ I-1-(1)-①-1) (九州国立博物館) ア ・ I-1-(1)-①-2) (5館共通) ア								
担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長 野尻忠					
【実績・成果】								
(九州国立博物館)								
ア 12件購入した。								
・購入の内訳：絵画2件、刀剣1件、陶磁1件、染織3件、考古4件、歴史資料1件 考古分野において重要文化財「大珠」と重要文化財「埴輪 男子」を購入した。「大珠」は長さ10cmを超える翡翠製装身具で、縄文時代の東日本と九州の地域交流を物語る資料である。「埴輪 男子」は優れた埴輪が出土したことで知られる群馬県伊勢崎市天神山古墳出土と伝わる埴輪で、古墳時代の服飾文化について重要な手掛かりを与える資料である。 また、絵画分野の「倣郭熙秋景山水図」や陶磁分野の「青磁劃花菊文坏・托」といった韓国美術の名品など、当館がテーマとする文化交流を物語る作例を購入した。 (5館共通)								
ア 13件の新規寄贈、55件の新規寄託があった。								
・寄贈の内訳：絵画2件、書跡1件、刀剣10件 絵画分野では近世文人画の伝統を踏まえた奥原晴湖の「羅漢図」、書跡分野では江戸時代後期の代表的儒学者である佐藤一斎の書の寄贈を受けた。刀剣分野では現存作例の少ない新田庄鍛冶の貴重な銘作である「太刀 銘備前国住親依ノ元徳二年十二月」や、筑後国を代表する刀工集団である三池派による刀剣の寄贈を受けた。								
・寄託の内訳：民族資料46件、歴史資料9件 民族資料分野ではヨーロッパ工芸技術の粋を極めた折り畳み式の西洋扇などを受託した。折り畳み式扇は日本発祥のものであり、中国を通じてヨーロッパ大陸に渡った。海を隔てた文化交流を象徴するものである。歴史資料分野では江戸時代に日本に輸入された「ライッセ『大絵画書』」など、16世紀から18世紀にかけてヨーロッパで刊行された書物を受託した。								
【補足事項】								
6年度に購入、新規寄贈、新規寄託された作品については、その一部を7年度内に当館文化交流展において公開する予定である。特に、購入した作品と新規寄贈された作品については、新収品展で公開する予定である。 所蔵品件数の当館における計算方法が、4年度まで東京・京都・奈良国立博物館の3館と異なっていたため、5年度において修正した。それに伴い、下欄の経年変化の所蔵品件数の数値を修正する必要が生じたため、所蔵品件数の各項目の上段には修正後の数値を、下段の丸括弧内には修正前の数値を記載した。 また、寄託品件数については、開館直後から生じていた件数の誤計算が5年度まで引き継がれていたため、5年度において修正した。下欄の経年変化の寄託品件数の数値には、修正後の数値を記載した。								
【定量的評価】項目	6年度実績	目標値	評定		2	3	4	5
所蔵品件数	18,317件	-	-	経年変化	18,065 (1,412)	18,142 (1,489)	18,234 (1,581)	18,292
うち国宝	4件	-	-		4	4	4	4
うち重要文化財	50件	-	-		44	44	46	48
収集件数	25件	-	-		133	77	92	87
うち購入件数	12件	-	-		49	21	35	9
うち寄贈件数	13件	-	-		84	56	56	78
うち編入件数	0件	-	-		0	0	1	0
寄託品件数	1,298件	-	-		1,223	1,258	1,314	1,275
うち新規寄託品件数	55件	-	-		50	40	77	2
長期借用品件数	947件	-	-		1,007	968	939	919
文化財購入費	394,060千円	-	-	584,156	231,117	487,406	296,560	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 日本とアジア諸地域との文化交流に関わる文化財を基軸に、分野のバランスよく購入し、また寄贈、寄託を受け入れた。寄託品については、今後の当館の展示の充実化に資する受託となった。 質量ともに優れてかつ多彩な作品を収蔵することができ、当館のコレクションの一層の充実を図ることができた。以上の成果に基づき、左記の評定とした。						



(購入)重要文化財
「埴輪 男子」

【中期計画記載事項】 1) 体系的・通史的にバランスのとれた所蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 (九州国立博物館) 日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 2) 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。	
【中期計画に対する評価】 評定： B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき、日本とアジア諸地域等との文化交流を視覚的に示す作品を収集の基本とし、継続的に収集活動を行った。寄贈・寄託については、既存の所蔵品の不足を補う分野を中心に、慎重な事前調査・検討を行った上で受け入れた。6年度に収蔵・受入した作品は当館において積極的に活用できるものばかりで、「大珠」や「埴輪 男子」、「倣郭熙秋景山水図」、「青磁劃花菊文坏・托」はコレクションの核となるものである。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①有形文化財の収集等 1) 有形文化財の収集 2) 寄贈・寄託品の受入れ等							
【年度計画】 ・ I-(1)-①-2) (5館共通) ア								
担当部課	学芸部			事業責任者	学芸部長 建石徹			
【実績・成果】 (5館共通) ア 国からの長期借用品について、適切に手続き及び管理を行った。 5年度3月に鑑査会議を開催した作品について、5月に評価額を算定し、65件の寄贈を受け入れた。 6年度に新たに寄贈の申し出を受けて調査を進め、7年1月に鑑査会議を開催した。3月に評価額を算定のうえ書跡1件の受入を決定した。								
								
6年度新収品 ボンボンニエール					6年度新収品 御製二首			
【補足事項】 6年度の新収品のボンボンニエールは、調査とメンテナンスを終えた上で、その一部を展覧会「百花ひらくー花々をめぐる美ー」(7年3月11日～5月6日)に出品した。 ※所蔵品と長期借用品を合わせて収蔵品という。								
【評価指標】項目	6年度実績	目標値	評価	経年変化	2	3	4	5
所蔵品件数	66件	-	-		-	-	-	0
うち国宝	0件	-	-		-	-	-	0
うち重要文化財	0件	-	-		-	-	-	0
収集件数	0件	-	-		-	-	-	0
うち購入件数	0件	-	-		-	-	-	0
うち寄贈件数	0件	-	-		-	-	-	0
うち編入件数	0件	-	-		-	-	-	0
寄託品件数	0件	-	-		-	-	-	0
うち新規寄託品件数	0件	-	-		-	-	-	0
長期借用品件数	6,175件	-	-	-	-	-	6,171	
文化財購入費	0千円	-	-	-	-	-	0	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 皇室から受け継がれた貴重な文化財を国からの無償貸与品として、適切に管理した。 また、収蔵品の充実に向けた規則等の整備を行い、新たに寄贈品を受け入れた。 国からの長期借用品とは異なる、当館の所蔵品を着実に増やし、博物館活動を充実させており、年度計画を達成したと判断した。						
【中期計画記載事項】 2) 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 皇室ゆかりの貴重な文化財を恒久的に伝えていくための保存を行うべく、収蔵品の管理を適切に実施した。 寄贈・寄託品の受入について方針等を策定し、収蔵品の充実に向けた取組を進めており、中期計画に従い順調に取組を進めることができた。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-1) (5館共通) ア、イ、ウ、(東京国立博物館) ア～キ			
担当部課	学芸企画部博物館情報課 学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長 村田良二 課長 沖松健次郎
【実績・成果】 (5館共通) ア ・資料館フィルム収蔵庫に空気清浄機と除湿器を設置し、庫内環境の改善を図った。 ・収蔵庫環境の改善のため、収蔵庫の徹底清掃及び防虫処理、土足禁止範囲の明確化等の運用改善を行った。 ・各収蔵庫のダイヤル錠や内扉の点検・交換を行った。 イ 6年度は730件の寄託品について所在確認作業を行い、収蔵場所の確認・更新を行った。 ウ 収蔵品等に関し、新規にデジタル撮影した画像は、画像管理システムに随時登録し、データ整備を推進した。あわせて、既存基本情報の修正更新も進め、一層のデータ整備を図った。 (東京国立博物館) ア ・未整理・未登録であった合計2件(考古1件、刀剣1件)を、継続して行っている列品及び伝来未詳品の調査により、列品として編入した。 ・未整理の陶片資料について整理及びクリーニング処置を行い、管理状況を改善した。 ・髪飾具(I-3848)の保存箱作成に伴う所在登録を行い、管理状況を改善した。 ・館内各収蔵庫において、一部列品(刀剣、写真資料、東洋民族)の所在点検を実施した。 ・キリシタン関係遺品(重要文化財)について、現在の保存状態を調査し、保管方法の検討ならびに登録情報の整備を進めた。長期管理換及び長期貸与を行っている一部の列品については、現地で調査を行った。 ・野外に所在する列品(考古、東洋考古、東洋民族、陶磁)について管理状況改善のための検討を進めた。 ・列品情報調査によって合計3件(書跡1件、考古2件)の新列品管理簿の員数修正を行った。 ・新列品管理簿の作品名称の点検を行い、旧台帳との対照により合計4件(東洋書跡1件、東洋考古3件)の修正を行った。 ・適切な列品管理の促進のため、「protoDB」及び列品ラベルの運用について検討を進めた。 ・外部公開データの基盤となる「protoDB」上の作品情報について、名称(合計7件、金工6件、東洋民族1件)、員数表記(合計21件、東洋書跡4件、東洋陶磁4件、東洋漆工1件、金工1件、黒田記念館11件)の修正を行った。 イ 古写真・ガラス乾板などの旧資料部関係品を整理し、列品として編入するための準備を進めた。また、館史資料を管理するシステムを導入し、年史編纂に際して収集された資料群の整理を進めた。 ウ 「protoDB」と「画像管理システム」のサーバー移行を実施した。また、「画像管理システム」のリニューアルに向けて現状システムの評価分析を実施した。 エ 継続して行っている列品および伝来未詳品調査を進め、統計業務のさらなる効率化と情報の利活用向上のため新たな集計項目を「収蔵品データ管理システム」に追加した。 オ 収蔵品の和古書・洋古書のデジタル化を実施し、合計21,447カットのデジタル撮影を行い、このうち44件を「東京国立博物館デジタルライブラリー」にて公開した。 カ 4×5ならびにブローニーフィルム259件のデジタル化を実施し、画像管理システムに登録した。また、利用外の写真カードについて整理を行った。 キ 保管環境改善のための移送、新たに所在が判明した収蔵品等の所在情報について、「protoDB」及び「収蔵品データ管理システム」の情報を更新した。また、継続して行っている列品等調査によって、伝来未詳品のうち1件を列品の一部と確認した。			
【補足事項】			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 6年度は継続的な整理作業及び調査を通し、未整理・未登録であった作品を公開活用のため列品に編入することができた。収蔵品についても確認作業を継続的にを行い、管理状況の改善を進めた。さらに、収蔵庫の清掃や運用改善を進め、収蔵庫環境の改善に向けた取り組みを着実に実施することができた。 収蔵品のデジタル化においては、冊数が大部の和古書を撮影することができた。加えて、フィルムについても外部利用申込が多い作品群についてまとまったデジタル化を実施することができた。また、運用システムについても新規ハードウェアへのサーバー移行を実施し、運用の安定化を図ることができた。	



キリシタン関係遺品調査の様子

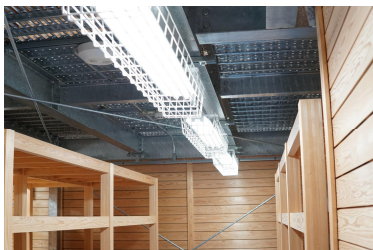
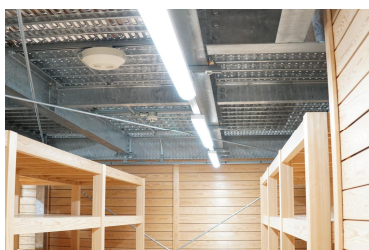
	以上により年度計画通り順調に事業を遂行できており、B評価が妥当であると判断した。
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、(中略)展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。	
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の4年目として、文化財に適した環境とするため各収蔵庫の改善や、寄贈品・収蔵品・未登録品の確認・整理を引き続き行うことができた。 収蔵品データベースの分野においても、新規ハードウェアへのサーバー移行を実施したことによって、「protoDB」と「画像管理システム」の運用が安定化した。 また、和古書等のデジタル撮影、フィルムのデジタル化については、大部のまとまった資料群を完了できたことによって、順調に計画を進めることができている。 以上のことから、中期計画を順調に遂行できていると判断した。7年度以降も中期計画に沿って施設設備の充実・改善や、収蔵品の確認作業、情報整備を継続して行っていく。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-1) (5 館共通) ア、イ、ウ、(京都国立博物館) ア、イ			
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 永島明子
【実績・成果】 (5 館共通) ア 中性紙箱等、作品を保管整理するため保存器材を整備し、収蔵庫環境を改善した。 イ 寄託品の継続手続きに伴い6月と12月に寄託品の所在を確認した。 ウ 収蔵品及び展覧会展示作品等、6,006 件(カット)の新規デジタル撮影を行った。既存の画像データのうち、7,608 件を収蔵品管理システムへ登録し、画像資料の充実を図った。 (京都国立博物館) ア 収蔵品写真等、既存フィルムを4,237 件、デジタル化した。 イ 収蔵品管理システムの課題をまとめ、特に展示情報及び題箋情報の管理機能を中心に改修した。			
【補足事項】 (5 館共通) ウ ・展覧会出陳作品の撮影は、特別展「日本、美のつば—異文化交流の軌跡—」(7年4月19日～6月15日)、特別展「宋元仏画—蒼海を越えたほとけたち—」(7年9月20日～11月16日)を対象として進めた。 ・特集展示「豊臣秀次と瑞泉寺」、「密教図像の美」において図録作成のため撮影を行った。特別公開「名刀再臨—時代を超える優品たち—」、特集展示「新時代の山城鍛冶—三品派と堀川派—」、「光琳かるたと小西家伝来尾形光琳関係資料」など陳列作品の撮影を行った。 ・収蔵品の撮影を行い、写真資料の充実に努めた。 ・5年度に引き続き、大徳寺龍光院の所蔵品調査を通して写真撮影を行い、画像データの蓄積に努めた。(処理番号1411Bア) (京都国立博物館) ア 当館職員によるフィルムのスキャニングと併せて、外部委託による画像データのデジタル化を積極的に進めた。画像を掲載していない作品のリストを整備し、今後の撮影計画について作品担当者、撮影技師等、関係者間で検討した。6年度は、新たに約83件の作品の画像を掲載することで、館蔵品データベースにおける画像掲載率の向上に努めた。			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		 蝦蟇仙人像	
【判定根拠、課題と対応】 中性紙製の箱など、作品の保管に適した資材を整え、収蔵庫環境を整備するとともに、寄託者との信頼関係継続に資するため、寄託品の所在確認を実施した。また、収蔵品情報蓄積の基盤となる管理システムについて、6年度は展示情報及び題箋情報の管理業務を中心に改修することで、作品担当者がシステム上で情報を更新、追加する業務に適したものとなるようにして、利便性を向上させた。以上の点からB評価とする。			
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品の管理を徹底し、特に収蔵品の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品の現状を確認の上、管理に必要なデータ(画像データ、テキストデータ等)を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。			
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画の4年目として、作品を保管するための資材を充実させ、収蔵に必要な環境の管理、整備に努めた。また、展示・調査研究等の業務に資するため、収蔵品の記録、管理に必要な画像データの整備においては、4,237件のフィルムをデジタル化した。 7年度以降も、収蔵環境の充実及び収蔵品に関わるデータの整備に努める。	

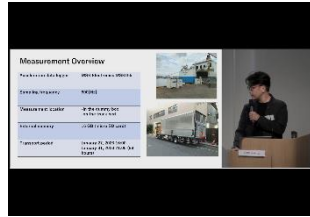


蝦蟇仙人像

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管・次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-1) (5館共通) ア、イ、ウ、(奈良国立博物館) ア、イ、ウ			
担当部課	学芸部	事業責任者	学芸部長 吉澤 悟
【実績・成果】 (5館共通) ア 仏教美術資料研究センター(重要文化財建造物)の老朽化した屋根修理を行った。また、なら仏像館・青銅器館における空調機の経年劣化した主要部品の更新を行った。 イ 寄託者情報の更新や預証書の更新に伴い、寄託品の所在確認を行った。 ウ 収蔵品等の新規デジタル撮影を引き続き実施した。 (奈良国立博物館) ア 収蔵品データベースについて、新規追加や既存情報の修正などを行い、情報の充実を図った。 イ 写真情報システムへ、新規に撮影したデジタル画像及びデジタル化したフィルム画像を、追加で登録した。 ウ 収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した。			
【補足事項】			
 仏教美術資料研究センターの屋根修理 下地状況(改修前)  仏教美術資料研究センターの屋根修理 下地状況(改修後)  なら仏像館 青銅器館の空調機			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 仏教美術資料研究センターの老朽化した屋根修理を行うことにより、有形文化財を安全に管理・保存し、次代へ継承していくための環境を整えた。また、なら仏像館・青銅器館における空調機の主要部品の更新を行うことで、適切な収蔵庫環境及び観覧環境を提供するための整備ができた。さらに、収蔵品情報の整備を継続して実施し、館蔵品情報の大幅な追加・修正を行うことができた。以上の成果から、年度計画を順調に遂行できたと判断し、B評価とした。	
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品の管理を徹底し、特に収蔵品の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品の現状を確認の上、管理に必要なデータ(画像データ、テキストデータ等)を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。			
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 収蔵に必要な施設整備の充実について6年度も着実に進めた。7年度以降も、引き続き設備改善に努めていく。ウェブサイト館蔵品データベースで公開されている情報について、最新のものに適宜修正を行い、また、公開作品を追加した。収蔵に必要な施設整備の充実、改善を引き続き努めていく。 以上の理由から、中期目標を着実に遂行できたと判断し、B評価とした。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管・次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-1) (5 館共通) ア、イ、ウ (九州国立博物館) ア、イ			
担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長 野尻忠
【実績・成果】 (5 館共通) ア 10月に収蔵庫内の扉、監視カメラ、防犯・防火設備、12月に空調設備の点検を実施した。収蔵庫の扉に関して、電気錠の開閉エラーや不具合を解消するため、電気錠の交換作業を行った。 蛍光管が2027年に生産終了するため、8月と11月に館内収蔵庫の一部（第6収蔵庫・一時収蔵庫）の照明をLEDに変更した。 イ 寄託品の出品預証書更新時に、寄託品253件の所在確認作業を行った。 ウ 専任撮影技師による3,591件（カット）の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データの整備を実施した。 (九州国立博物館) ア 文化財情報システムの運用を継続し、813件の文化財データを新規登録し、24,556件を更新した。 イ 文化財情報を管理する業務システムを点検し、主に受入・貸与機能を改善した。陳列案管理データベースにおいては、展示計画データの入出力機能を改良し、展示作業の効率化を実現した。			
【補足事項】			
  一時収蔵庫の照明 変更前（左／蛍光管）と変更後（右／LED）			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 収蔵庫の点検を実施し、収蔵庫の扉や照明の整備・改善を行った。出品預証書更新時に、定期的に寄託品の所在を確認した。 収蔵品等のデータの登録・更新を継続し、正しい情報を参照できる状態を維持した。また、業務システムの改善により登録データの利活用を推進し、各業務の負担軽減と効率化に寄与した。	
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品の管理を徹底し、特に収蔵品の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。			
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 収蔵庫内の点検及び施設設備の充実・改善を図ることができた。定期的な作品の整理や移動作業、収蔵棚や保管箱の設置により、収蔵品の適切な管理に努めた。 5年度に引き続き、資料登録情報の更新を行い、展示や修理情報の蓄積・活用を継続し、中期計画を順調に遂行した。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-1) (5館共通) ア、イ、ウ、(皇居三の丸尚蔵館) ア、イ			
担当部課	学芸部	事業責任者	管理・情報課長 五味 聖 調査・保存課長 高梨 真行
【実績・成果】 (5館共通) ア ・収蔵庫のゾーニングを行い、靴の履き替えや掃除の徹底、トラップの設置などを行った。 ・新たに刀剣用の収納箆笥を調達し、より良い環境での管理とした。 ・寄贈で受け入れたボンボニエールについて、新たに中性紙箱を作成した。 イ ・4年度に行った悉皆調査のデータに基づき、継続して管理を行った。国からの長期借用品について借用続き及び報告を適切に行った。 ウ ・収蔵品の343件5,336カット撮影を行い、収蔵品管理システムへの登録及びデータの整備を行った。 ・寄贈で受け入れたボンボニエール等66件について作品の収蔵品管理票及び保存管理のカルテを作成した。 (皇居三の丸尚蔵館) ア ・収蔵品管理システムに収蔵品に関する情報(画像を含む)を蓄積し、収蔵品の管理、展示、貸出、修理、調査研究、情報発信に利用できるよう情報を整理し、随時情報の更新を行った。 ・当館ウェブサイトの収蔵品検索において、キーワード検索のほか、入力要らずで、雅楽などテーマを選択するなどの一般の方が利用しやすい検索機能や、作者、分類、場所、時代、材質・技法を選択しての検索機能を引き続き整備した。 ・過去の展覧会図録(55冊)や紀要(25冊)を保存のためにデジタル化し、将来にわたり調査研究で利用できるようにするとともに、OCRと校正により図録解説をテキストデータ化して、調査研究や情報発信に利用できるようにした。 イ ・デジタル化を計画的に進め、近現代の作品を収蔵する当館の特徴をふまえ、当館ウェブサイトで検索できる収蔵品情報(画像データ、テキストデータ)を計画的に充実させた。			
【補足事項】 著作権上問題があるものは画像の公開を控えるなど、確認を行いながら適切に対応した。			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 収蔵品の管理について、文化庁等と連携し、他館への貸出や修理の手続きなど、適切に管理を継続している。計画どおり業務を遂行しておりB評価と判断した。	
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品の管理を徹底し、特に収蔵品の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品の 現状を確認の上、管理に必要なデータ(画像データ、テキストデータ等)を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。			
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 新たに建設された建物内の収蔵庫環境のなかで適切に管理を行っている。6年度も8年度の全面開館と更なる収蔵庫の整備に向けて工事が継続されており、更なる収蔵環境の整備計画の策定と安全な移送・保管の準備を行った。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管・次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 2) 有形文化財の保存		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-2) (5館共通) ア、イ、ウ、(東京国立博物館) ア			
担当部課	学芸研究部保存科学課	事業責任者	課長 和田浩
【実績・成果】 (5館共通) ア 全館的に害虫防除のための防虫薬剤設置を実施した。修理室及び収蔵庫 17 か所に対して除塵防黴清掃及び昆虫類侵入遮断対策を実施した。 イ 収蔵品を中心とした貸与に伴い、保存カルテを 542 件作成した。 ウ 収蔵庫及び展示室 294 か所の温湿度を計測し、それらの解析から、収蔵環境の特性評価を行った。 (東京国立博物館) ア 文化財の梱包に用いられる梱包資材の特性を把握するための実験、及び輸送中に生じた振動の解析結果をとりまとめ、国内外で4件の学会発表を実施した。「ガラス乾板の長距離輸送時における振動計測について」(日本文化財科学会第41回大会)、「ポリエステル綿の衝撃吸収性能に関する基礎的研究」(日本包装学会第33回年次大会)、「文化財輸送時に発生した振動解析と梱包設計の評価」(日本機械学会2024年度年次大会)、「Long distance transportation in Japan: continuous vibration measurement and analysis」(International Symposium " Vibration and Conservation ")			
			
梱包資材の落下衝撃試験		国際会議における成果発表	
【補足事項】			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 害虫防除のための防虫薬剤設置や修理室の除塵防黴清掃、昆虫類侵入遮断対策を実施し、展示室及び収蔵庫の保存環境を向上させるための具体的な措置を講じた。また、温湿度計測と特性評価を通じて、収蔵環境の適切な管理に資する基礎データを蓄積した。さらに、保存カルテを作成し、収蔵品の状態を体系的に記録する体制を整備した。これらの取り組みは年度計画の達成に寄与する成果といえる。 一方で、温湿度データの解析結果を効果的に活用し、環境改善対策を迅速に実施するためのシステム構築が不十分である。データの自動解析システムを導入し、異常値や傾向をリアルタイムで可視化する仕組みを整備することで、速やかな対策立案と実行を可能とする必要がある。また、保存環境改善に必要な人的・物的資源の確保を強化し、効率的かつ持続可能な管理体制の構築を目指す必要がある。7年度以降、これらの課題について対応を検討していく。	
【中期計画記載事項】 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。			
【中期計画に対する評価】 評価： B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき、害虫防除、修理室の清掃及び収蔵環境の管理を着実に進めたほか、保存カルテの作成を通じて収蔵品管理の精度を向上させた。また、文化財の輸送に関する振動解析や梱包資材の特性評価の成果を国内外の学会で発表し、輸送技術の向上に貢献した。これらの活動は、中期計画の目標である保存環境の改善および文化財保護の基盤強化に資するものであり、総合評価Bに値する実績といえる。 課題としては、振動解析や梱包設計に関する研究成果を現場での実運用に展開するためのプロセスが十分に整備されていないことが挙げられる。現場スタッフと研究者の連携を強化し、研究成果を基にした具体的ガイドラインやマニュアルを作成する必要がある。また、これらを活用したトレーニングを定期的の実施し、研究知見を現場で活用できる体制を構築することで、計画目標のさらなる達成を目指す。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1)有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 2)有形文化財の保存		
【年度計画】			
・ I-1-(1)-②-2) (5館共通) ア、イ、ウ (京都国立博物館) ア、イ、ウ			
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 永島明子 保存科学室長 降幡順子
【実績・成果】			
(5館共通)			
ア 館内外の保存科学担当者をはじめとする関係者との連携を強化し、IPM(Integrated Pest Management)の徹底を図った。			
イ 収蔵品の保存カルテを305件作成した。			
ウ 平成知新館及び明治古都館、収蔵庫等について、温湿度環境モニタリング調査を実施し、空気質調査・昆虫類生息調査等の実施とそのデータ解析を行った。			
(京都国立博物館)			
ア 平成知新館の地震対策として、建物基礎部と床免震部に設置した振動計により、建物と床免震装置の振動調査を継続して実施した。京都市で観測された震度3以上の地震としては5月11日に発生した京都府南部地震があるが、平成知新館の建物・床面の免振装置が起動するほど大きな揺れではなかったことを確認した。			
イ 本館エリアの改修に役立てるため、湿湿度の測定に加えて新たに日照時間の測定を開始し、温湿度や日照時間と展示室内の壁面及び小屋裏の結露との関係についてのシミュレーション解析を開始した。			
ウ			
・平成知新館、明治古都館、収蔵庫等の歩行性昆虫類生息調査を継続的に実施した。IPMの一環として定期的に清掃作業を実施し、害虫捕獲数と場所を逐次関係者と情報共有することにより、効果的なIPM対策を行うことができた。			
・主要な燻蒸ガスの一つである「エキヒュームS」の販売中止により、従来通りの方法ではカビの生じている作品に対するガス燻蒸が実施できなくなるため、カビが生じた状態で持ち込まれる作品の緊急対策について機構内各館とも問題共有し、講演会等を通じて文化財所有者へ向けた情報発信を行った。			
・展示室、収蔵庫、修理所等エリアについて、通年で温湿度調査を実施し、データの蓄積を行った。今後導入予定の新温湿度モニタリングシステムへの移行に向けて、同システムの実験的運用を展示室・収蔵庫の一部で開始し、データ収集を継続中である。通信障害や停電時のバックアップ対策など運用上で想定される事案についても、各部署・業者と速やかに打ち合わせすることにより、連携強化を図ることができた。			
【補足事項】			
・降幡順子「文化財を微生物から守る ガス燻蒸の今後」『京文連令和6年研修講演会』9月			
			
		展示ケース内環境調査	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 主として貸与に伴う点検時に作成している収蔵品の保存カルテを新たに305件作成した。 平成知新館展示室・収蔵庫、東収蔵庫の一体的な温湿度環境モニタリング調査とともに、定期的な空気質調査・昆虫類生息調査を行い、調査結果のデータ解析を通してエリア別の環境管理対策を実施することができた。地震等への対策として、平成知新館の振動調査を継続して実施しているが、6年度は知新館においては震度2以上の揺れは記録されなかった。温湿度の管理や館内IPM活動については、館内他部署との連携を図りながら、展示・保管環境の維持に必要な措置を迅速にとることができた。	
【中期計画記載事項】 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。			
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 6年度は、モニタリング・システムの更新に関する試験を実施し、新システムへの移動後も継続的な計測が可能であることを確認した。試験結果を踏まえた改修を進めながら、順次モニタリング・システムの更新を図っていく予定である。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 2) 有形文化財の保存		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-2) (5 館共通) ア、イ、ウ (奈良国立博物館) ア			
担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長 鳥越俊行
【実績・成果】 (5 館共通) ア 館内における文化財害虫の生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示に関わる箇所を中心に昆虫調査用トラップを設置しモニタリングを実施した。トラップは約 2 か月に 1 度交換し、調査結果を蓄積するとともに傾向を分析することにより IPM を推進した。文化財害虫の生息リスクのある古い展示ケースには防虫シートを設置し、収蔵場所のほこり対策には防塵マットを定期交換するなど、展示・収蔵環境の衛生保持に努めた。 イ 保存修理指導室で収蔵品情報システム又は写真情報システムを用いて、288 件の保存カルテを作成・保管した。 ウ 無線 LAN によるリアルタイム温湿度管理システムを運用し、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示環境の変化について、監視及び即時の対応を実施した。無線式温湿度センサーは展覧会の都度設置しており、展示終了後にはデータの分析を行い今後の参考資料とするとともに、蓄積した温湿度測定データを館内環境の改善に役立てた。 (奈良国立博物館) ア 展示ケース内の粉塵調査を正倉院展終了後の 11 月 15 日に実施した。展示室の無線 LAN 温湿度管理システムによる 24 時間モニタリングと展示室入口のエアカーテンを適切に運用することで館内温湿度負荷の低減を図り、年間を通じて安定した温湿度環境を維持した。			
【補足事項】 (5 館共通) ア 館内の展示室・収蔵庫や文化財保存修理所等100か所に設置している文化財害虫調査用トラップを、学芸部研究員が当番制で2か月に1回設置・回収を行った。回収したトラップに捕獲された害虫の同定は外部業者に委託し、種類や捕獲数に関する情報の蓄積を行うとともに、害虫被害が懸念される箇所を中心に対策を実施した。併せて害虫発生を防ぐための清掃等による衛生環境の改善・保持などIPMの実践につなげた。 (奈良国立博物館) ア 機械式自動調湿装置を内蔵した展示ケースを使用することで、多数の観覧者によるケース内の急激な温湿度変化を緩和し安定した展示環境を保つことができた。			
			
		トラップ交換の様子	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 5年度に引き続き、温湿度の管理、文化財害虫への対策等を実施して、文化財の管理・保存を図ることができた。計画的なIPMの徹底及び保存カルテの作成、収蔵・展示施設環境のデータ解析及び蓄積という年度の計画を、順調に進めることができたためBと評価した。	
【中期計画記載事項】 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。			
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 管理・保存のために、温湿度・生物生息等に対する計画的な対策を実施することができ、またデータの蓄積及び解析を順調に行うことができた。以上の理由から、中期計画を着実に遂行できたと判断し、Bとした。7年度以降も展示・保存環境の把握に努め、適切に対応することにより文化財の維持・管理に努める。	

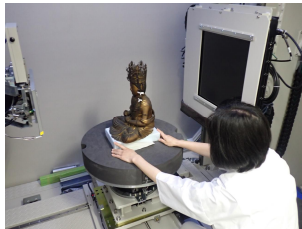


トラップ交換の様子

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管・次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 2) 有形文化財の保存		
【年度計画】			
・ I-1-(1)-②-2) (5館共通) ア、イ、ウ (九州国立博物館) ア			
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 木川りか
【実績・成果】			
(5館共通)			
ア			
・館内各所において温湿度を適切に管理し、粘着トラップによる文化財害虫の発生状況のモニタリングを行った。			
・生物被害の予防として、一般来館者エリアやバックヤード等各所につき年2回程度、専門業者による徹底的な清掃と、必要に応じて防虫のための薬剤塗布を実施し、文化財害虫の発生を低減した。また、文化財害虫の発生が懸念される箇所に対して、清掃と薬剤塗布による早期的な対処を行った。			
・文化財害虫が館内に入り込むことを防ぐため、館外から持ち込まれる文化財や展示品、資材に対し、低酸素濃度処理、二酸化炭素処理、低温処理等の化学薬剤を使用しない生物処理方法を材質に応じて選択し、計15回の生物処理を行った。			
・館内職員・館内業務を請け負う事業者向けにIPM研修を開催し、IPMの理念や具体的な取組を周知して、その重要性を共有した。			
イ 収蔵品86件について、保存カルテを作成した。			
ウ 文化財の収蔵・展示環境における温湿度、空気質の測定及び館内全域の虫の発生状況調査によって、文化財周辺の環境データを蓄積した。			
(九州国立博物館)			
ア			
・展示・収蔵空間及びバックヤードに毛髪式自記記録計や温湿度データロガーを設置して、温湿度データを採取した。調湿剤の使用や空調管理によって、文化財の材質に合わせた適切な温湿度環境を維持した。			
・粘着トラップによる文化財害虫のモニタリング調査を継続しており、館内全域約430か所に粘着トラップを設置し、月に一回、交換と観察による文化財害虫の同定を行った。			
・館内で目視によって発見、捕獲された虫を記録し、虫の侵入、生息状況を調査した。			
・文化財害虫に対して行った清掃や薬剤塗布等の対処について、継続的なデータの採取によって効果を確認した。			
(補足事項)			
(5館共通)			
ア 館内の環境保全活動のうち、文化財の移動導線周辺エリアの徹底清掃と粘着トラップにかかった虫の観察同定、展示ケース用空気循環ファンのクリーニングについては、地元のNPO法人の協力を得て実施している。また、当館ボランティア環境部会の一般来館者エリアの巡視やトラップ交換、トラップの組立等に協力を得ている。			
ウ 収蔵・展示環境の空気質について、パッシブ型やアクティブ型の測定手法を用いて、展示資材等から放散される有機酸、アンモニア、アルデヒド類、作品等から放出される還元性硫黄化合物の放散量を定量的に分析した。			
(九州国立博物館)			
ア 文化財害虫の発生が疑われる箇所には臨時的な粘着トラップの追加設置を、また、特定の文化財害虫に対しては、発生箇所の壁際等を中心に目視による定期的な観察を行い、適宜詳細な調査を実施した。			
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】	
評定：B		作品の生物被害等の防止、及び環境要因による劣化の抑制を図り、捕獲虫データの蓄積、日々の清掃や定期的な徹底清掃の実施、15回の生物処理などIPM活動を充実させ、温湿度・空気質等各データの蓄積、解析を定例の業務として確実に取り組んだ。	
【中期計画記載事項】			
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。			
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】	
評定：B		文化財周辺の温湿度、生物生息、空気質のデータを、継続的に収集・解析し、文化財の材質に応じた適切な展示・保存環境の維持、及び早期的な環境の改善に役立てた。データの採取、その活用を業務として組み込み、計画的に文化財の劣化を防ぐための対策を実施した。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1)有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 2)有形文化財の保存		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-2) (5館共通) ア、イ、ウ、(皇居三の丸尚蔵館) ア			
担当部課	調査・保存課	事業責任者	調査・保存課長 高梨真行
【実績・成果】 (5館共通) ア 収蔵品等の生物被害等を防止するため、IPM(総合的有害生物管理)に取り組み、館内ゾーニングの徹底、環境調査を行い、その調査結果に基づいた館職員による清掃などを実施した。 イ 新収品を含む全収蔵品についての保存カルテを整備し、展覧会等の他機関への貸与に際して、462件分の保存状況の情報について充実させた。 ウ 収蔵・展示施設に関する環境について、温湿度、空気環境などを継続的に測定し、その結果を分析することで環境についての問題点を見つけ、早期に対応した。なお、測定結果はデータとして館内に蓄積している。 (皇居三の丸尚蔵館) ア 館内の生物生息調査は、日常的な点検に加え年4回の生物トラップによる調査(101箇所)、年4回の付着菌調査(27箇所)を実施し、データを蓄積している。			
 館内清掃の様子			
【補足事項】 週1回(毎週木曜日)、文化財IPM活動の一環として、環境調査結果に基づいた館職員による清掃等を行った。清掃等の対策の効果を検証するため、部分的に生物生息調査も実施した。 館内の温湿度については合計121箇所のセンサーやデータロガー、毛髪計を設置、測定を継続した。 空気環境については年2回の酸・アルカリ測定(14箇所)、月1回の検知管による空気環境測定(19箇所)を実施した。			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 データの蓄積と結果の分析及び迅速な対応により、空調機の不具合や空気環境の悪化などを早期に発見し、空調機の調整や研究員による換気作業などを行った。保存環境を維持するため、常時モニタリングのうえ必要な環境整備を施し、結果として生物被害の拡大を未然に防いだ。以上の理由から、年度計画を達成できたと判断し、Bと評価した。	
【中期計画記載事項】 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。			
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 展示・保存環境について各種データの蓄積及び分析・対応を、館内担当者と外部の施設等関係者との連携において綿密かつ迅速に行うことができたため、懸念が生じた場合でも早期での対応ができた。中期計画を順調に遂行できたと判断し、Bと評価した。今後もこうした協力体制の維持が重要であるため、7年度以降も適切に進めていく。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-1計画的な修理及びデータの蓄積 3)-2科学的な技術を取り入れた修理								
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通) ア、イ、(東京国立博物館) ア ・ I-1-(1)-②-3)-2 (4館共通) ア、(東京国立博物館) ア									
担当部課	学芸研究部保存科学課			事業責任者	課長 和田浩				
【実績・成果】 ・ I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通) ア 保存科学課の修理技術者を中心に、館内で館蔵品、寄託品の本格修理及び応急修理を行った。必要に応じたX線CTスキャナ等各種機器の活用によって作品の状態や処置が必要な箇所を把握しつつ、作品の劣化予防のために64件の本格修理及び528件の応急修理を実施した。 イ データベース構築のために、5年度に修理が完了した18件の修理内容についてデジタル化を実施し、その成果をもとに『東京国立博物館文化財修理報告書25』を刊行した。当該修理報告書は4年度より紙媒体から電子書籍へと移行し、より多くの国内外に向けて発信している。 (東京国立博物館) ア 機構の保存科学分野の研究員及び館蔵品の担当研究員、機構内外の修復技術担当者の業務状況、館蔵品の修理に費やせる予算規模、修理の緊急度などを勘案して、重要文化財44件を含む64件の本格修理を実施した。 ・ I-1-(1)-②-3)-2 (4館共通) ア 館蔵品修理の際に、X線CTスキャナやハンドヘルド蛍光X線分析装置などで科学分析調査を行うことで、作品構造や材質、劣化状況についての情報が得られ、修理方針策定に役立てた。 (東京国立博物館) ア X線CTスキャナや今年度新規取得したマッピング可能な蛍光X線分析装置を用いて、「三彩騎馬人物」(唐時代・8世紀 中国)や「自在鷹置物(台座)」(江戸時代・18～19世紀)、「武人埴輪模型」(大正元年)の損傷と旧修理の状況確認、「蘭図軸」(朝鮮時代・16～17世紀)の絹の着色材などを調査し、適切な修理に役立てた。									
									
見返り美人図 本格修理の修理監督				浮世絵の応急修理 マウント装					
【補足事項】 ・「見返り美人図」(菱川師宣筆、江戸時代・17世紀)は当館及び文化財活用センターの修理プロジェクト寄附金(文化財修理ファンドレイジング事業)により修理を実施したほか、国宝「的蔵主あて進道語」(了庵清欲筆、中国、元時代・1341年)は当館プレミアム賛助会員であるプリヴェ企業再生グループ株式会社の寄附金による本格修理に着手した。									
【定量的評価】項目		6年度実績	目標値	評価	経年 変化	2	3	4	5
修理件数(本格修理)		64件	-	-		44	53	94	69
修理のデータベース化件数		18件	-	-		13	16	24	31
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 自己収入、寄附金、ファンドレイジング、文化財活用センター貸与促進事業費等を活用することで、安定した件数の修理を実施することができた。また、当館を代表する作品を質の高い修理によって次代へ継承する環境を整えることができたことから、所期の計画を遂行できたと評価した。							
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画の4年目に当たり、機構の保存科学担当研究員および機構内外の修復技術者の連携により、文化財を次代へ継承するために最適な修理を行なうことができた。修理の各段階の調査に際しては新規導入した蛍光X線分析装置等により修理指針を検討する上で重要なデータを提供できたほか、修理以外の調査にも各種機器を活用することで現状の記録および今後の損傷に対処するための資料を蓄積できた。引き続き、修復技術者と連携しながら文化財の安全な活用を担保できる環境を整えたい。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管・次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-1計画的な修理及びデータの蓄積 3)-2科学的な技術を取り入れた修理							
【年度計画】								
・ I-1-(1)-②-3)-1 (4 館共通) ア、イ、(京都国立博物館) ア ・ I-1-(1)-②-3)-2 (4 館共通) ア、(京都国立博物館) ア、イ								
担当部課	学芸部			事業責任者	列品管理室長 永島明子 保存修理指導室長 福士雄也 保存科学室長 降幡順子			
【実績・成果】								
・ I-1-(1)-②-3)-1 (4 館共通) ア・館蔵品中、緊急性の高い、絵画 6 件、書跡 1 件、金工 5 件の計 12 件の本格修理を行った（内訳：新規 7 件、継続 5 件）。 ・ 重要文化財「琴棋書画図 山水図」をはじめとする中世水墨画の代表作について、5 か年計画の修理を完了した。 イ 6 年度は 163 件の新規修理文化財搬入があり、修理文化財情報のデータベース化を行った。 (京都国立博物館) ア 中長期修理計画に基づき、館蔵品の修理を予定通り実施する事ができた。 ・ I-1-(1)-②-3)-2 (4 館共通) ア ・文化財保存修理所創設以来の非電子化修理報告の PDF 化を進め、6 年度は 145 件の修理記録の PDF 化を行った。 ・ 6 年度、所蔵者の協力を得て文化財修理所工房で実施した科学分析調査は、材質調査としては、蛍光 X 線分析調査 7 件、分光分析調査 2 件、顕微鏡撮影 2 件である。作品の構造調査としては、I.P(Imaging Plate)を用いた X 線透過撮影 1 件、X 線 CT 調査 2 件を実施した。 (京都国立博物館) ア 彫刻や服飾品などについて X 線 CT を活用して構造調査を行い、修理に有用な情報を収取し、それらを修理技術者へ提供することができた。 イ 非破壊的な材料調査では、主として各工房からの依頼により、絵画資料の染料・顔料調査、染織品の染料調査、飾金具の材質調査を実施し、材料データの蓄積を図った。可視・近赤外線を用いた分光分析による染料調査は、絵画資料、染織資料とともに調査を依頼される事例が増えてきており、より適切かつ速やかな調査が可能となるハイパースペクトルカメラの運用を年度末から開始した。								
【補足事項】								
								
			X 線 CT による構造調査		絵画資料の顔料調査			
【定量的評価】項目	6年度実績	目標値	評価	経年変化	2	3	4	5
修理件数（本格修理）	12件	-	-		12	9	7	11
修理のデータベース化件数	163件	-	-		137	124	160	109
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 例年同様、文化財保存修理所各工房からの修理前・後の科学的調査の依頼を受け入れ、構造調査や使用材料等についての調査を行った。6年度は、科学調査結果を展覧会図録で公開するなど、修理事業に伴い得られたデータを広く周知することができた。						
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 X線CT撮影、X線透過撮影、蛍光X線分析、分光分析、顕微鏡観察等の多様な非破壊的手法を用いて、作品材質に応じた調査を実施できた。また6年度は、修理中に除去される肌裏紙に使用されたのり成分の検出のため、館内にない分析装置を使用する必要があり、他機関と協力し分析を実施した。7年度は、測定装置の導入が課題となる分析手法に関して、他機関との協力の必要性について更に検討する。今後も継続的に調査を進めデータを蓄積し、修理技術者とのデータ・知識の共有を図るとともに、成果の発信に努める。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-1 計画的な修理及びデータの蓄積 3)-2 科学的な技術を取り入れた修理								
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通) ア、イ、(奈良国立博物館) ア、イ、ウ ・ I-1-(1)-②-3)-2 (4館共通) ア、(奈良国立博物館) ア、イ									
担当部課	学芸部			事業責任者	保存修理指導室長 鳥越俊行				
【実績・成果】 ・ I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通) ア 所蔵品本格修理5件のうち、新規4件、5年度からの継続事業1件を実施した(内訳: 絵画2件、彫刻2件、考古1件)。修理は、6年度に1件が完了し、絵画1件、彫刻2件、考古1件は7年度に継続して行う。 イ 『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第7号を2月に刊行した。また、修理報告資料を整理しデータベース化に努めた。 (奈良国立博物館) ア 本格修理として、「聖徳太子及道慈律師像」等の修理に取り組んだ。 イ 平成22年度に策定した所蔵品の長期修理計画に基づき、修理を計画どおりに実施した。 ウ 寄託品所蔵者と協議を行い、寄託品1件について当館の推薦による財団からの助成を受けて修理を実施した。 I-1-(1)-②-3)-2 (4館共通) ア 紙文化財の修理を行っている当館文化財保存修理所の文化財保存担当職員と共同で修理文化財の紙質調査を行い、修理方針の検討資料とした。 (奈良国立博物館) ア 文化財保存修理所で修理を行った木造彫刻作品について、5年度に引き続き京都大学生存圏研究所と連携して樹種同定調査を行った。同定結果は修理に活用した。(実施計11件) イ 所蔵品や寄託品の修理の際に、当館が保有する光学機器を用い、当館研究員と文化財保存修理所工房職員が共同で赤外線撮影や蛍光X線分析、X線CT等を実施するとともに、修理方針の検討資料とした。									
【補足事項】 ・ 所蔵品修理を目的とした募金箱について、従来の設置場所以外に「新たに修理された文化財」展の会場に設置した。 ・ 寄託品修理として、「絹本着色鳥羽天皇像」の1件を継続修理した。住友財団の助成により2か年継続で修理を行ったもので、6年度末に修理が完了した。「増長天立像・多聞天立像」についてはバンクオブアメリカによる財団助成により6年7月から10か月の予定で修理を実施し、7年5月に修理完了予定。 ・ 当館の所蔵品や寄託品の修理に際して、文化財保存修理所の各工房と当館研究員が共同で文化財調査を実施し、データの収集・共有化に努めた。これらの調査を円滑に実行するため、当館に設置されている光学機器(高精細デジタルカメラ、近赤外線カメラ、蛍光X線分析装置、X線透過撮影装置、X線CT装置など)を積極的に利用し活用を図った。									
【定量的評価】項目		6年度実績	目標値	評価	経年 変化	2	3	4	5
修理件数(本格修理)		5件	—	—		7	3	6	7
修理のデータベース化件数		52件	—	—		70	55	53	58
【年度計画に対する総合評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 5年度から実施している継続事業による修理のほか、新規事業による修理にも着工でき、計画的に修理を実施することができた。また、本格修理及びデータベース化の件数は、予定どおり進行し、年度計画を実行できた。さらに、京都大学と引き続き連携して彫刻作品の樹種同定調査を行うとともにCT調査も実施するなど、修理所との連携を進めた。以上の理由から、Bと評価した。7年度も必要に応じ各種の調査を実施することで、より良い修理のためのデータ取得と活用を図る。							
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品は、機構の保存科学研究員と機構内外の修理技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備を更新し充実を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 財団助成や寄附金、募金等を活用し、緊急性の高いものから順次修理を実施することができた。また、当館保存担当研究員と文化財保存修理所の修理技術者が連携し、X線CTやX線透過撮影、蛍光X線分析などを実施することで、適切な修理の基礎資料としたことより、中期計画は順調に進んでいる。 保存科学担当者と修理技術者が、修理前や修理中の文化財に対して繊維同定や樹種同定などの科学分析を行うことで、適切な修理のための基礎資料とするとともに、その成果を踏まえ計画的な修理を実施した。絵画作品に対して赤外線撮影を実施し修理に活用することにより、文化財の修理指針の検討に役立てた。 以上の理由からBと評価した。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管・次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-1計画的な修理及びデータの蓄積 3)-2科学的な技術を取り入れた修理							
【年度計画】								
・ I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通) ア、イ (九州国立博物館) ア ・ I-1-(1)-②-3)-2 (4館共通) ア、 (九州国立博物館) ア								
担当部課	学芸部博物館科学課			事業責任者	課長 木川りか			
【実績・成果】								
I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通)								
ア 館蔵品を中心に、損傷状況や展示計画等を勘案し、優先順位の高い文化財16件の本格修理を実施した。また、損傷の軽微な文化財10件の応急修理を実施した。								
イ 平成30～令和元年度施工分の修理報告書を刊行し、データベースにも登録した。 (九州国立博物館)								
ア 毎年度継続して修理を行っている重要文化財「対馬宗家関係資料」について、4件の本格修理を実施した。								
I-1-(1)-②-3)-2 (4館共通)								
ア								
・ 重要文化財「対馬宗家関係資料」等、紙を素材とする文化財6件の本格修理に伴い、本紙剥落片を使用して紙質調査を行い、補修紙の作製に役立てるとともに、文化財の学術情報として記録を行った。								
・ 「白綸子地染織小袖裂」の修理において、台紙への固定に用いられていた両面テープの除去を行った。当初はその除去を物理的に行う予定であったが、裂地に粘着物質が残ることが懸案となっていた。東京文化財研究所の協力を得て有機溶剤THF（テトロヒドロフラン）を用いることにより、粘着物質を安全に除去することができた。 (九州国立博物館)								
ア 修理方針の策定等を目的として、「雍正帝福字額」のX線透過撮影による構造調査など3件の科学調査を実施した。								
【補足事項】								
I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通)								
ア 当館経費による修理件数は26件（本格16件、応急10件） 内訳：絵画6件（本格3件、応急3件）、書跡2件（本格2件）、金工2件（応急2件）、陶磁1件（応急1件）、漆工2件（応急2件）、染織2件（本格2件）、考古資料5件（本格4件、応急1件）、歴史資料6件（本格5件、応急1件）。								
【定量的評価】項目	6年度実績	目標値	評価	経年変化	2	3	4	5
修理件数（本格修理）	16件	-	-		20	17	20	21
修理のデータベース化件数	126件	-	-		128	120	201	131
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 目視調査及びX線CTスキャナ等による科学調査を行い文化財の状態や損傷を正確に把握した上で、文化財に対して適切な本格修理、又は応急修理を実施し、年度計画を遂行した。また、6年度は特に染織品に貼られていた広範囲の両面テープを溶剤THFを用いて取り除く新たな方法を導入し年度計画を大きく上回る成果が得られたことから、A評価とした。						
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 伝統的な修理技術と最新の科学調査を取り入れ、緊急性の高い文化財から順次、正確かつ計画的に修理を実施した。中期計画の円滑な遂行および着実な課題解決に加えて、新たな修理方法の導入により中期計画を大きく上回る成果を得られたことから、A評価とした。						



「雍正帝福字額」
X線透過撮影調査
(下：撮影画像)



「雍正帝福字額」
X線透過撮影調査
(下：撮影画像)

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1)有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理 3)-1計画的な修理及びデータの蓄積 3)-2科学的な技術を取り入れた修理							
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-3)-1 (皇居三の丸尚蔵館)ア、イ								
担当部課	調査・保存課		事業責任者	調査・保存課長 高梨真行				
【実績・成果】 (皇居三の丸尚蔵館) ア 当館の収蔵品は、国所有のため修理は文化庁において実施している。収蔵品のうち修理、保存処理を要する緊急性の高いものについて、文化庁と調整・協議を行い、本格修理が行われた。修理に先立つ修理品の実見について、委員を招聘し意見交換に協力した。また修理監督として、職員を派遣した。 イ 作品を安全に保管していくために必要な応急的な剥落止めなどを実施した。また、日常的な作品の手入れ管理を実施した。 以下の絵画8点、書跡1件及び写真史料1件について、応急処置及び収納箱の新規作成を行った。 絵画 清水良雄《静物》 金山平三《菊花図》 加藤静児《秋晴》 長澤蘆雪《綿花猫図》 山本芳翠《唐家屯月下之歩哨》 山本芳翠《ハブ、鳥と闘う》 田崎草雲《秋山晚暉図》 高橋源吉《陸海軍連合大演習》 書跡 《古筆手鑑》(元宝器主管) 写真史料 《明治十二年 明治天皇御下命 人物写真帖》 以下、絵画11件及び書跡23件の作品について、軸木及び風帯の中の鉛の除去を行った。 絵画 竹内栖鳳《雨霽》ほか10件 書跡 徳大寺実則筆 和歌《新年雪》ほか22件 以下、絵画36件の作品の掛緒の交換及び収納箱の修理を行った。 絵画 円山応挙《海辺図》ほか35件								
【補足事項】 本格修理については文化庁事業として当館と連携して実施された(絵画7件、染織2、漆工5件、金工1件、刀剣4件)。								
【定量的評価】項目	6年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	2	3	4	5
修理件数(本格修理)	-	-	-		-	-	-	-
修理のデータベース化件数	-	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 日常的に収蔵品の管理を適切に行い、修理が必要な緊急性の高い収蔵品について、文化庁と協議し実施した。また、地方展開展や館内の展示に合わせ、必要な収蔵品については応急修理を実施した。刀剣類用の収納筆筒を新規作成するなど適切な保存修理を行った。						
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 応急的な修理は館内で適切に実施している。また、本格的な修理が必要な収蔵品について、文化庁と協議を進めながら、数か年にわたる修理計画の策定やそれに基づく実見立ち合いなど適切に実施した。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 4) 文化財修理施設等の運営
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-4) (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア、イ	
担当部課	総務課 学芸部
事業責任者	課長 森考平 保存修理指導室長 福土雄也
【実績・成果】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア 文化財保存修理所の整備・充実のため、定期的に工房との修理者協議会を開催し、意見交換を行った。(年7回) ・ 法律で定められた設備の点検と併せ、各所老朽化した設備の整備を行った。 法定設備点検 エレベーター点検 (毎月1回) 消防設備点検 (6月19日・12月23日) 電気設備法定点検 (12月9日) 設備整備 屋上遮熱塗装工事 (6月 11月) (写真) 屋上冷却塔更新工事 (7年3月) 熱源・空調用ポンプ分解整備工事 (7年3月) イ ・ 文化財保存修理所運営委員会を開催し、5年度の事業報告及び6年度の事業計画等について審議を行った。(6月14日) 審議の結果、6年度より、国立美術館・国立大学法人・大学共同利用機関法人が所有する文化財についても包括的に受け入れを認め、7年度の運営委員会にて事後承認を受けることとなった。	
【補足事項】  屋上遮熱塗装工事	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 文化財保存修理所の設備の点検や整備を計画的に実施し、施設の整備・充実を図った。文化財保存修理所運営委員会を開催して、施設の計画的な運用の積極的な活用を図った。以上、同施設の運営に必要な措置を遺漏なく実施出来たため、所期の目標を達成できていると判断した。
【中期計画記載事項】 文化財保存修理所等については、国と協力して整備充実を図る。	
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 開所以来40年以上が経過していることから、諸設備の老朽化に起因する不具合が時折発生することは避けられないが、こうした事態に迅速かつ適切に対応しつつ、工房と協力しながら運営に当たること、指定品を中心とした文化財の修理事業を安全に行う施設としての役割を果たしており、中期計画4年度として、順調に計画を遂行できていると判断した。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 4) 文化財修理施設等の運営		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-4) (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア、イ			
担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長 鳥越俊行
【実績・成果】 ア 文化財保存修理所の故障していた電動ブラインドを更新し、環境の整備を行った。 イ・文化財保存修理所運営委員会については、5年度に、開催時期を年度当初に変更することが決定し、4月25日に開催したが、年度当初の修理に影響があることなどから年度末開催に変更し、第2回を3月13日に開催した。 ・修理に従事する公益財団法人美術院、株式会社文化財保存、合同会社北村文化財漆工の3工房代表者と当館学芸部で文化財保存修理所協議会を開催（1回目は9月24日、2回目は7年2月19日に開催）し、各工房における修理事業の実施状況、修理所施設の維持・管理、工房内の温湿度や虫害をはじめとする保存環境の改善に関する課題などを討議した。 ・館長を含む当館職員が、定期的に文化財保存修理所各工房の修理実施状況を視察する修理所巡回を4回実施した。			
【補足事項】 ・12月17日から7年1月14日まで、当館西新館第2室において特集陳列「新たに修理された文化財」を開催した。5年度に文化財保存修理所各工房などで修理が完了した11件の当館所蔵品・寄託品等を修理解説パネルとともに展示することで、文化財修理技術を広く一般に理解してもらう機会とした。 ・文化財保存修理所の施設や事業の概要を紹介する案内パンフレットを、新たに修理された文化財展、修理所公開や国内外の修理専門技術者による修理所視察などの機会に配布した。 ・7年1月9日に文化財保存修理所特別公開を開催し、修理の取り組みや修理所各工房の活動を広く知ってもらう機会を設けた。報道関係者5人に加え、抽選で選ばれた一般参加者111人の参加があった。			
			
		文化財保存修理所特別公開の様子	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 文化財保存修理所運営委員会を2回、所内3工房代表者との協議会を2回開催し、修理の実施状況の確認及び保存環境の改善について協議するなど、情報の共有に努め、文化財保存修理所を円滑に運営することができた。また、文化財保存修理所特別公開を開催し、工房や文化財修理についての周知及び理解促進に努めた。以上の理由から、年度計画を着実に実行することができたと判断し、Bと評価した。	
【中期計画記載事項】 文化財保存修理所等については、国と協力して整備充実を図る。			
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 文化財保存修理所を円滑に運用するとともに、X線CTによる修理への応用について、文化財被災時の連携方法について修理技術者と意見交換を行った。また、文化財の修理や修理専門技術者の周知を図り、広く理解促進に努めた。以上の理由から、中期計画を順調に進めることができたと判断し、Bと評価した。	



文化財保存修理所特別公開の様子

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 4) 文化財修復施設等の運営		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-4) (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア、イ			
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 木川りか
【実績・成果】 I-1-(1)-②-4) (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア 文化財保存修復施設4では、開館当初から木造彫刻を中心とした大型の文化財の修理を行ってきたが、近年は彫刻の修理案件がない状況が続いている。一方で、装こう分野や漆工分野では大型の文化財の修理が増加しており文化財保存修復施設1～3及び6での修理が難しい場合は、文化財保存修復施設4を使用して修理を行っている。今後も既存の施設を最大限に活用しながら、様々な分野の文化財の修理を受け入れる予定である。 イ 文化財保存修復施設にて、重要文化財「対馬宗家関係資料」のうち4件の本格修理を含め、当館経費による修理事業23件、所蔵者等負担による修理36件、計59件の修理を実施した。その他、館外にて当館経費による3件の修理を実施した。			
			
「瀟湘八景詩」の修理監督風景		「爵」の修理監督風景	
【補足事項】 I-1-(1)-②-4) (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) イ ・ 令和6年度に文化財保存修復施設を使用した修理事業件数 内訳：絵画15件（当館経費6件）、書跡9件（当館経費2件）、金工2件（当館経費2件）、漆工10件（当館経費2件）、考古5件（当館経費5件）、歴史資料18件（当館経費6件） ・ 文化財保存修復施設で修理した文化財59件中52件、8割以上が九州・山口地区所在の文化財であり、九州・山口地区における文化財修理の拠点として確実に実績を蓄積している。			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 文化財保存修復施設を積極的に活用し、文化財の保存修理事業を適切に実施した。九州・山口地区における文化財修理の拠点としても確実に成果を上げていることからB評定とした。	
【中期計画記載事項】 文化財保存修理所等については、国と協力して整備充実を図る。			
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画を円滑に推進していることからB評定とした。修理に用いる道具や設備に関しては、経年劣化や部品の生産終了により、抜本的な修理やメンテナンスを行う必要がある。今後も館内外の関係者と道具や設備の修理活用方法を検討し、環境整備を計画的かつ断続的に進めていくことにより、文化財を安全かつ適切に修理できる施設環境の維持に努める。	